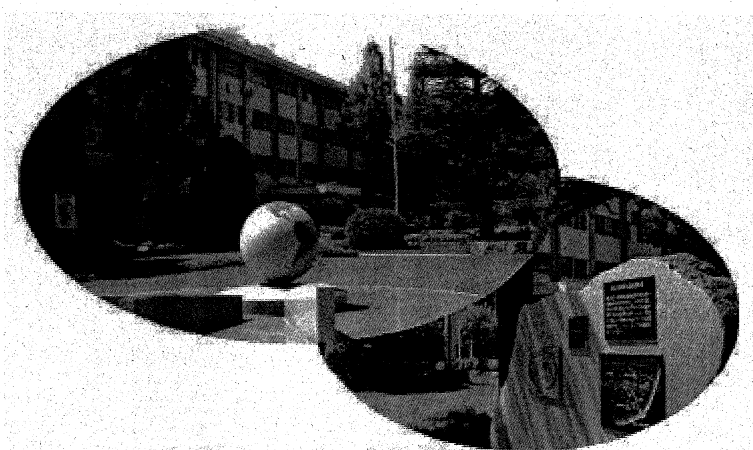


令和5年度

年間学習計画  
【シラバス】



農業ビジネス科3年

## 令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	国語	科目	現代文 A	単位数	3単位
学科	農業ビジネス科		学年	第3学年	
教科書	改訂版 新編 現代文A (第一学習社)		副教材等	実践文字力トリプルチェック (尚文出版) 最新国語便覧 (浜島書店) 国語必携タブレットワーク演習 (尚文出版)	

## 1 学習の目標

- (1) 漢字力等、国語の基礎学力の向上を図ります。
- (2) 社会生活を送るのに必要な語彙力を向上させ、コミュニケーション能力を高めます。
- (3) 思考力・想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、社会への関心を深めます。

## 2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4	1 随筆「なぜ「コロンブスの卵」を描くのか」	・先入観や固定観念を見直し、視点や価値の多様性に気づき、視野を広げる。
	5	2 小説「デューク」	・登場人物の心の機微を想像し、小説を読む楽しさを知る。
	6	3 評論「数え方で磨く日本語」	・言葉と文化の関わりを学び、我が国の言語文化への理解を深める。
	7	4 問題演習(タブレットワーク演習)	・漢字・語彙力を高める。 ※教科書の教材と並行して定期的に学習する。2, 3学期も同様。
第2学期	9	5 評論「花女房」	・日本の民話とグリム童話の対比から、文化や価値観の相違を読み取りグローバルな視点を養う。
	10	6 小説「山月記」	・近代小説を通して現代にも通用する人生や人間についての普遍的な考え方を捉え、自己の問題として考える。
	11	7 随筆「出島のチューリップ」	・長崎を舞台にした筆者の回想から、郷土の歴史への関心を高め、郷土愛を再認識する。
	12	8 言語活動「短歌と俳句」 9 農高百首 10 問題演習(タブレットワーク演習)	・著名な短歌・俳句に触れ、言葉に対する感受性と表現力を養う。カルタ大会の準備を通して、クラスメートとの親睦を深める。
第3学期	1	11 評論「クマを変えてしまう人間」	・自然を見つめる目を養い、自然との関わり方や人間の都合で自然環境を変えてしまうことの危険性に気づく。
	2	12 問題演習(タブレットワーク演習)	
	3		
観点別評価法			・読解力・思考力・言葉の知識が身についているかを定期考査や文字力小テストにより評価します。 ・教科学習に対して真摯に取り組み、国語力の向上に努める態度が身についているかを、提出物の状況から評価します。 ・当該学年にふさわしい表現能力・技術が身についているかを、短歌及び意見文課題等から評価します。

## 3 担当者からのメッセージ

- 1 授業には、必ず教科書・ノート・国語便覧を用意し、必要に応じてタブレット端末を準備してください。
- 2 授業中は、理解が深まるよう、集中して臨むことが大切です。
- 3 授業整理プリントは、「まず自分で解いてみること、書いてみること」が重要です。
- 4 小テスト・課題は、指示された方法で取り組み、期限を守って提出してください。
- 5 タブレット端末を利用して、言葉や社会的背景について調べ、学習効果を上げてください。

## 令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	地理歴史	科目	世界史A	単位数	2単位
学科	農業ビジネス科		学年	第 3 学年	
教科書	現代の世界史 (山川出版社)		副教材等	なし	

## 1 学習の目標

近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

## 2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4	第Ⅱ部 現代世界と日本	*第一次世界大戦前夜から第二次世界大戦までを概観します。
	5	第7章 二つの世界大戦	(1) ヨーロッパの国際関係を中心に第一次世界大戦が起きた背景や戦争中の社会の変化
	6	①第一次世界大戦とロシア革命	(2) 第一次世界大戦によってもたらされた影響と、大戦後の国際秩序の問題点
第2学期	7	②ヴェルサイユ体制と欧米諸国	(3) 第一次世界大戦後のアジアの民族運動の高揚
	9	③民族主義の新展開	(4) ファシズム台頭の背景と展開
	10	④世界恐慌とファシズム	を中心に理解します。
第3学期	11	⑤第二次世界大戦	*戦後の東西関係、アジア・アフリカ諸民族の独立、2陣営の変化を概観します。
	12	⑤第二次世界大戦	(1) 冷戦構造が形成されていった情勢を把握させ、アジア・アフリカ諸国の台頭や米ソの動揺によって冷戦構造が変化したこと
	1	第8章 冷戦の時代	を中心に理解します。
観点別評価法	2	①冷戦の形成と第三世界の登場	
	3	①冷戦の形成と第三世界の登場	
観点別評価法		1. 知識・技能(70%)…定期考査の基本問題、小テストなど。 2. 思考・判断・表現(10%)…定期考査の応用問題など。 3. 主体的に学習に取り組む態度(20%)…授業態度・意欲・発言、ノートや課題の提出状況など	

## 3 担当者からのメッセージ

- 1 歴史は過去と現代の対話です。現在、未来を理解し考えるために歴史学習は大切です。
- 2 歴史は因果関係 (原因と結果の関係) より成り立っています。だれが、いつ、どこで、なにを、なぜ、したのか、それがどのような結果、影響をおよぼしたのかを考え、理解するようにしてください。
- 3 授業をうける前に教科書に必ず一度目を通しておきましょう。
- 4 なぜ? どうして? の問題意識をもって主体的に授業をうけましょう。

## 令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	数学	科目	数学 I	単位数	2単位
学科	農業ビジネス科		学年	第 3 学年	
教科書	最新 数学 I (数研出版)	副教材等	パラレルノート数学 I+A (数研出版) 教師自作プリント		

## 1. 学習の目標

- (1) 進学・就職試験に対応できる数学の能力を養う。
- (2) 割合、食塩水の濃度、図形、速さ・道のり・時間、仕事算の問題を解けるようにする。
- (3) 方程式、不等式、2次関数、三角比と図形などについて学び、実際に適用できる能力を習得する。

## 2. 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4	・数の計算、式の計算	進学・就職試験に向けた演習を行う。
	5	・展開、因数分解	・数や式の計算、多項式の加法、減法、乗法、展開・因数分解、無理数の計算などを学ぶ。
	6	・方程式、不等式	・方程式、連立方程式、不等式の解法を学ぶ。
	7	・割合、濃度、速さなど	・割合、濃度、速度の問題の解法を学ぶ。
第2学期	9	・相似な図形、面積、体積 ・仕事算	進学・就職試験に向けた演習を行う。 ・相似な図形のアreas比・体積比について学ぶ。
	10	・1次関数、2次関数	・球の表面積や体積を学ぶ。
	11		・仕事算の解法を学ぶ。
	12	・三角比	・1次関数(直線)、2次関数(放物線)について学ぶ。 ・三角比の値、三角比の相互関係を学ぶ。 ・正弦定理、余弦定理、三角形の面積を学ぶ。
第3学期	1	・規則的な数の並び ・指数法則を利用した計算 ・数学のいろいろな問題演習	・規則的な数の並びについて、第n項や和の求め方を学ぶ。 ・指数法則を利用して、大きな数の計算方法を学ぶ。 ・数学のいろいろな問題の解き方を学ぶ。
	2		
	3		
観点別学習状況の評価方法	A (十分満足できる)、B (おおむね満足できる)、C (努力を要する) の3段階で評価する。 1. 知識・技能 (40%)・・・定期考査の基本問題、小テストなどにより評価する。 2. 思考・判断・表現 (40%)・・・定期考査の標準・応用問題、発表などにより評価する。 3. 主体的に学習に取り組む態度 (20%) ・・・授業態度・意欲・発言、ノートや課題の提出状況などにより評価する。		

## 3 成績の算出方法

1. 各学期の成績は、観点別学習状況の評価をもとに算出する。
2. 学年成績は、各学期の成績をもとに算出する。

## 4 担当者からのメッセージ

1. 授業には、必ず教科書・ノート・問題集を、必要に応じてタブレット端末を準備すること。
2. 授業中は、理解が深まるよう、集中して臨むこと。
3. 復習として、教科書の類題を自分で解いてみること。
4. ノート・問題集は、定期考査後に提出してもらうので、しっかり記入しておくこと。
5. 必要に応じて、タブレット端末を利用して、学習効果を上げる工夫をすること。

## 令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	2単位
学科	農業ビジネス科		学年	第3学年	
教科書	科学と人間生活新訂版(実教出版)		副教材等	なし	

## 1 学習の目標

- (1) 自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について理解します。
- (2) 科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて理解を深めます。
- (3) 科学の基本的な概念や原理・法則を学び、科学的な見方や考え方を養います。
- (4) 科学に対する興味・関心を高めます。

## 2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4	2 物質の科学 2節 食品と衣料	食品の種類と三大栄養素について学習します。
	5		衣料にはどのような繊維が使われているかを学習します。
	6	3 生命の科学 2節 微生物とその利用	微生物の種類とその発見の歴史を学習します。
第2学期	7		微生物が食品や医療、水の浄化など人間生活に必要なものであり、生態系でも重要な役割をしていることを学習します。
	9	4 光や熱の科学 1節 光の性質とその利用	光の性質について学習します。
	10		光が日常生活の中でどのように利用されているか学習します。
	11	5 宇宙や地球の科学 2節 身近な自然景観と自然災害	自然景観が地球の大規模なプレートの運動と大気や水の働きによってつくられていることを学習します。
第3学期	12		日本でおきる地震、火山活動、気象の各現象と、それに伴う様々な自然災害について学習します。
	1	6 これからの科学と人間生活	人間が生み出した科学と科学技術の基本と現状を見て、これからどのように進めて行けばよいかを考えます。
	2 3		
観点別 評価法		ペーパーテストや小テストの内容、実験・観察への取り組む態度や技能、レポートの作成やグループでの話し合い、発表などを通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を総合的に評価する。	

## 3 担当者からのメッセージ

- 1 日常の体験と専門用語を関連づけて覚えることが大切です。
- 2 諦めずに努力することが大切です。
- 3 授業で生じた疑問は積極的に質問してください。
- 4 ヒトも自然の一部であることを念頭に置いて学習に取り組んでください。

## 令和5年度 年間学習計画（シラバス）

教科	保健体育	科目	体育	単位数	2単位
学科	農業ビジネス科		学年	第3学年	
教科書	最新高等保健体育（大修館書店）		副教材等	最新高等保健ノート	

## 1 学習の目標

- (1) 心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解を深める。
- (2) 運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質を育てる。
- (3) 体力の向上を図る。

## 2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容（項目）	学習のねらい
第1学期	4	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の約束事を確認する。</li> <li>・礼儀作法、規範意識、協調性を身につける。</li> <li>・集団の一員としての自覚を持つ。</li> <li>・体づくり運動をとおして、基礎体力、身体バランスを高める。</li> <li>・運動の楽しさを味わう。</li> <li>・能力に応じた技能を身につける。</li> <li>・チームにおける自分の役割を果たす。</li> <li>・審判法を身につけ、自分たちで試合ができるようになる。</li> <li>・自分の能力を理解し、それに応じた技、練習ができるようになる。</li> </ul>
	5	選択 器械運動 柔道 ダンス	
	6	体づくり運動 選択 ソフトボール ラグビー	
第2学期	7	バレーボール バドミントン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に参加し、みんなで協力してやり遂げる責任感を身につけ、達成感を味わう。</li> <li>・礼儀作法を身につける。</li> <li>・安全面に留意して練習できるようになる。</li> <li>・審判法を身につける。</li> <li>・運動の楽しさを味わう。</li> <li>・能力に応じた技能を身につける。</li> <li>・チームにおける自分の役割を果たす。</li> <li>・審判法を身につけ、自分たちで試合ができるようになる。</li> <li>・自分の体力、能力に応じて目標を設定し、積極的に取り組む。</li> </ul>
	9	選択（1学期末種目継続） 選択 ラグビー	
	10	サッカー バスケットボール バレーボール バドミントン	
	11	ソフトテニス （種目は変更の場合あり）	
第3学期	12	選択 サッカー バスケットボール ネット型	(2学期に同じ)
	1	選択 ソフトボー バスケットボール バレーボール バドミントン	
観点別 評価法			<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的授業へ参加。</li> <li>・容儀面。</li> <li>・目標にあった練習と安全・健康管理。</li> <li>・授業ノート等の記入と自己評価。</li> <li>・運動スキル。</li> </ul>

## 3 担当者からのメッセージ

- ・社会で大事な協調性、礼儀（挨拶）、規範意識を身につけよう。
- ・集団の一員としての自覚を持ち、自己の責任を果たせる人間になろう。
- ・将来の自分のために、しっかり体力をつけよう。
- ・身体活動を通して、運動の楽しさ・爽快感を味わい、生涯にわたってスポーツにかかわろう。

## 令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	外国語	科目	英語会話	単位数	2単位
学科	農業ビジネス科		学年	第 3 学年	
教科書	Hello there! English Conversation (東京書籍)		副教材等	コーパス 1800 3rd Edition (東京書籍)	

## 1 学習の目標

- (1) 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとすることができる。
- (2) 英語を通じて、身近な話題について会話することができる。
- (3) 英語を通じて、言語の違いや文化の違いについて理解を深めることができる。

## 2 学習計画及び評価方法

学期	月		
第1学期	4	Unit 1 Introduction Lesson 1 Nice to Meet You Lesson 2 Hello, Friends!	○自己紹介、友達の紹介ができる ・きき返す、あいさつをする、意味を尋ねる、説明する ・許可を求める・与える、相手について尋ねる・答える、リストアップする
	5	Unit 2 My Interests Lesson 3 My Favorite Music	○好きなこと、興味のあることについて会話ができる
	6	Lesson 4 What Are You Crazy about?	・意見を言う、興味・関心を伝える、誘う・誘いを断る
	7	Unit 3 Food & Health Lesson 5 A Friendly Potluck Dinner	○料理について、作り方の説明ができる ・許可を求める・許可する/許可しない、説明する
	第2学期	9	Lesson 6 Are You All Right? Unit 4 My Beautiful Country Lesson 7 Talking about Our Town
10		Lesson 8 Traditional Culture Unit 5 Future	○自分の住んでいる町について積極的に話すことができる ・(距離・方角、場所の特徴などを) 描写する
11		Lesson 9 Equal Roles	○各国・地域の伝統文化について積極的に話すことができる ・予定を尋ねる・答える、習慣を尋ねる、説明する
12			○自分の価値観をはっきりと表現することができる ・感想・感情を述べる
第3学期		1	Lesson 10 Helping Each Other
	2		
	3		
観点別評価法			<b>【知識・技能】</b> ・基本的な単語、文法、表現が定着しているか。 <b>【思考・判断・表現】</b> ・基本的な単語、文法、表現を使って、適切なコミュニケーションができていくか。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ・提出物等がきちんと提出されているか。 ・コミュニケーションをとる適切な態度等、英語に対する関心をもって授業に臨んでいるか。

## 3 担当者からのメッセージ

「英語会話」では、今までに学習した基本的な単語や文法を復習しながら、会話や応対等をベースにして実生活で使えるような表現を中心に学習していきます。卒業後、仕事や海外旅行等で役立つ英語表現を身につけることを目指します。また、英会話を通して、異文化理解につながるような学習も行います。さらに発展的に学習をしたい人は、年に3回実施される実用英語技能検定の受検にチャレンジしてみましょう。

## 令和5年度 年間学習計画（シラバス）

教科	農業	科目	課題研究	単位数	3単位
学科	農業ビジネス科		学年	第3学年	
教科書	なし		副教材等	なし	

## 1 学習の目標

- (1) 農業に関する課題を設定し、その課題を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身につける。
- (2) 専攻学習3年間の集大成としてこれまで学習した知識・技術を基に生徒1人1人が課題を設定して計画を立て、調査研究を行う。
- (3) 研究のプロセスや結果については要旨集としてまとめる。

## 2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容（項目）	学習のねらい
第1学期	4	1 オリエンテーション (1) 各自研究題目決定	・課題研究の意義方法を理解する。 1 動機の明確化 テーマ決め
	5	2 実施計画の立て方	2 計画書作成 年間計画書を作成する。
	6	3 研究課題に対する調査・実験	3 実施 文献調査 器具・資材の調達 記録の重要性
	7	4 一学期のまとめ	
第2学期	9	5 研究課題に対する調査	・研究テーマによっては実施期間が休業日を利用して実施する（B4一枚程度でまとめる）。
	10	6 研究課題に対する実験実習	
	11	7 中間発表	・中間発表については、農業祭の展示用として取り組む。
	12	(1) 研究課題に対する調査結果 (2) 実験自習結果 8 課題のまとめ	・評価・反省
第3学期	1	9 要旨集の作成	・今まで実施してきた研究のまとめを行い、要旨集の作成を行う（A4二枚。）
	2	10 課題研究発表会（農業ビジネス科）	・パソコン等を使い（パワーポイント等）発表する。
観点別 評価法	<input type="radio"/> 記録簿の提出（中間評価）（最終評価） <input type="radio"/> 学期毎のまとめレポートの提出 <input type="radio"/> 発表会における、発表内容・発表態度、作成取り組みにおける、関心・意欲・態度		

## 3 担当者からのメッセージ

この課題研究は、3年間の専門分野学習の集大成として位置づけられているので、一生懸命頑張ってもらいたい。何事に対しても疑問を持って取り組み、自らがテーマを選定し、実験計画を立て、実験を行なうといった自分で疑問を解決する力を身に付けて欲しい。みんなの取り組みを期待したい。



## 令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	農業	科目	総合実習	単位数	2(1)単位
学科	農業ビジネス科		学年	第3学年	
教科書	畜産・果樹・野菜 (実教出版)		副教材等	なし	

## 1 学習の目標

- (1) 農業の各分野に関する体験的な学習を通して、総合的な技術を習得する。
- (2) 実験実習を通して、管理能力や企画力やコミュニケーション能力と態度の育成を図る。
- (3) 生産や経営管理における技術体系を理解させ、農業生物、生育環境、施設などを管理する能力を養う。

## 2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4 ～ 7	経営管理総合実習 【畜産】※管理実習含む (1) 家畜の観察方法 (2) 愛玩動物の観察方法 【果樹】 (1) ウメの収穫・出荷調整 (2) ハウスビワの収穫・出荷調整 【野菜】 (1) メロンの定植・誘引・かん水 (2) キュウリの誘引・収穫・調整 (3) トマトの誘引・収穫・調整 (4) カボチャの収穫・調整	【畜産】 ・日頃の管理実習の中で動物の健康観察することが重要であるかを理解する。 【果樹】 ・収穫の適期、収穫と出荷調整の方法を知る。 【野菜】 ・果菜類の栽培管理について技術を習得する。
第2学期	9 ～ 12	経営管理総合実習 【畜産】※管理実習含む (1) 飼料製造について (2) 乾草の作り方 (3) 畜産加工品の製造 【果樹】 (1) ビワの誘引・摘房と摘らい (2) ウメの整枝、剪定 【野菜】 (1) イチゴの定植・摘葉 (2) 夏秋メロンの定植・誘引 (3) メロンの収穫・果実診断	【畜産】 ・飼料の特性を理解する。 ・ヤギ、羊の飼料となる乾草づくりを理解する ・農業祭に向けてくん鶏製造方法を理解する。 【果樹】 ・低樹高栽培における誘引の方法と高品質果実生産のための栽培技術を知る。 【野菜】 ・イチゴの栽培管理についての技術を習得する。 ・メロンの品質を診断し、品質の評価を行う。
第3学期	1 ～ 3	経営管理総合実習 【畜産】※管理実習含む (1) 動物の病気 【果樹】 (1) ハウスビワの摘果、袋かけ 【野菜】 (1) イチゴの収穫・調整・診断	【畜産】 ・動物を飼育する上で病気の予防について理解する。 【果樹】 ・病虫害対策、袋がけの方法などを理解する。 【野菜】 ・イチゴの栽培技術を習得する。
観点別 評価法		下記の内容について総合的に評価します。 次の内容について総合的に評価します。・実習の準備 (忘れ物等) ・実習態度・農業鑑定競技の成績 ・板書内容のノート記入・実習手帳の提出状況 (実習手帳を携帯し実習内容、目的、方法、ポイント、感想を記述することで、理論、方法などを総合的に理解する。) ・定期考査による理解度 (「学習のねらい」にそって、その内容の理解が深まったか)	

## 3 担当者からのメッセージ

- 常に問題意識を持ち実習に取り組み、他の実習の取り組みにも関心を持ち取り組むよう心がけましょう。
- 実際に栽培できるように、生理・生態について学び、植物全般に共通する性質と植物ごとに異なる性質をしっかりと理解しましょう。
- 実習ノートの記録を重視します。必ず実習手帳を持参し、毎時間の実習内容や生育状況、管理のポイントなど記録する習慣を身につけましょう。
- よい植物は、よい環境で育ちます。植物栽培に適した環境について学びましょう。
- 「苗半作 (なえはんさく)」といわれるように、よい苗を育てることはとても大切です。育苗方法についてしっかりと学習しましょう。
- 危険防止や体調管理のために、常に実習服を着用し実習しましょう。
- 片づけまでが授業の一環です。常に使用した道具は洗浄し元あった場所に返し、病気伝染防止や道具の管理が出来るよう心がけましょう。

## 令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	農業	科目	農業情報処理	単位数	2単位
学科	農業ビジネス科		学年	第3学年	
教科書	農業情報処理 (実教出版)		副教材等	表計算検定問題集	

## 1 学習の目標

- (1) パソコンを使って基本的なソフト (エクセル (表計算)・パワーポイント) の使い方とその応用技術を学習する。
- (2) データベースソフトウェアの特徴と機能を理解し、利用方法を身につける。
- (3) 画像・図形処理ソフトウェアの特徴と機能を理解し、利用方法を身につける。
- (4) プレゼンテーションソフトウェアの特徴と機能を理解し、基本操作を身につけ、プレゼンを行えるようにする。

## 2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
1 学期	4	実技 (1) 表計算4級 (2) 表計算3級	・エクセルを用いて、表計算の基本操作を理解し、使用できるようにする。
	5		・エクセル諸機能を理解し、応用できるようにする。
	6	講義 1 表計算ソフトウェアの利用	・表計算ソフトウェアについて理解する。
	7	(1) 関数 (2) 表の編集 (3) グラフの作成	
第2 学期	9	実技 (1) データベースソフトウェア	・データベースソフトウェアの概要・基本操作を理解し、使用できるようにする。
	10	(2) 画像・図形処理ソフトウェア (3) プレゼンテーションソフトウェア	・画像・図形処理ソフトウェア、ペイント系ソフトウェアの概要・基本操作を理解し、使用できるようにする。
	11	講義 2 データベースソフトウェアの利用	・プレゼンテーションソフトウェアの基本操作を理解し、使用できるようにする。
	12	3 画像・図形処理ソフトウェアの利用	・プレゼンテーションソフトウェアを用いて、発表等で使用できる技能を身につける。
第3 学期	1	講義 4 プレゼンテーションソフトウェアの利用	・プレゼンテーションソフトウェアについて理解する。
	2		
	3		
観点別 評価法		<b>【知識・技能】</b> 実技試験 (20点分) 筆記試験 (50点分) …定期考査の実技試験と筆記試験により評価する。 <b>【思考・判断・表現】</b> レポート・発表等 (10点分) …レポートの内容や発表内容などにより評価する。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 平常点 (20点分) …授業態度・考査のやり直し・ノートや課題の提出状況などにより評価する。	

## 3 担当者からのメッセージ

タブレットやパソコンが普及してきた今の時代において、どの職場においてもパソコンを用いた作業が多くなってきています。2年時に引き続き、3年生でもパソコンを利用する時間を多くとりたいと思います。授業のなかでパソコンに関する様々な技術を学び、最低限の技能を身につけ卒業してほしいと思います。

## 令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	農業	科目	農業経営	単位数	2単位
学科	農業ビジネス科		学年	第 3 学年	
教科書	農業経営 (実教出版)		副教材等	なし	

## 1 学習の目標

- (1) 農業の動向を知り、今後の農業経営と食料生産の方向性について学ぶ。
- (2) 農業経営の組織と運営について理解する。
- (3) マーケティングについて学ぶ。
- (4) 農業経営診断の大切さと診断ポイントを理解する。

## 2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4	1 農業の動向と農業経営 (1) わが国と世界の状況	・世界の農業の現状を知り、今後の農業動向について理解する。また、食料の需要と供給についての知識を習得する。
	5	(2) 今後の農業経営と食料生産の方向	・農業や農村の役割を知り、環境保全に関する知識を習得する。また、持続的農業の進展や有機農法への取り組みについて理解する。
	6	2 農業経営の組織と運営 (1) 農業経営の主体と目標	・家族経営や企業的経営についてそれぞれの特徴を理解する。
	7	(2) 農業生産の要素	・生産要素の特性と利用に関する知識を習得する
	9	(3) 農業経営組織の組立 (4) 生産組織と法人化 (5) 農業経営の運営	・農業経営者がどのような理由で作目を選択するかについて考え、なぜ複合化・多角化するのかを知る。 ・生産組織がどのような役割を果たしているかを知る。
第2学期	10	3 農業経営の会計	・経営規模を拡大する利点を理解する。
	11	(1) 簿記の基礎 (2) 簿記の実際	・簿記の意味や要素などを理解する。 ・取引・勘定・仕訳など、複式簿記の基本を理解する。
	12	(3) 原価計算	・複式簿記による、基本的な取引の記帳から決算までの仕組みを学ぶ。
第3学期	1	4 農業経営の診断と設計	・農業経営診断の大切さと診断のポイントを理解する。
	2	(1) 農業経営の診断	
	3	(2) 農業経営の設計	・農業経営の設計手順を知る。いろいろな設計の方法を理解する。
第3学期	5	まとめ	
	観点別 評価法	下記の内容について総合的に評価します。 ・授業に臨む服装 ・授業開始・終了の挨拶 ・授業の準備 (忘れ物等)・授業態度 ・発問に対する答え ・小テスト・定期考査による理解度 (「学習のねらい」にそって、その内容の理解が深まったか)	・板書内容のノート記入 ・ノート・プリントの整理 ・予習・復習の状況 ・課題・ノートの提出状況

## 3 担当者からのメッセージ

- 1 世界の農業情勢を詳しく知り、そのなかで日本がどのような現状であるのかをしっかりと理解しましょう。
- 2 農業の生産と消費の動向を知ることによって、どのような農産物が求められているかを理解しましょう。
- 3 農業生産とマーケティングは密接な関わりがあります。消費者のニーズや販売戦略について詳しく学習しましょう。
- 4 私たちが住む地域の実態やそれぞれの経営目標に応じて、農業の経営改善ができるような態度と能力を身につけましょう。
- 5 はじめて聞く言葉や専門用語がたくさん出てきます。必ず予習・復習をしておきましょう。
- 6 黒板に書かれた内容は必ずノートに書いておきましょう。また、説明された内容も必要に応じてメモをとる習慣をつけましょう。

## 令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	農業	科目	専攻 野菜	単位数	5単位
学科	農業ビジネス科 (野菜コース)		学年	第3学年	
教科書	野菜(実教出版)		副教材等	日本農業技術検定テキスト	

## 1 学習の目標

- (1) 農業の体験的な学習を通して、総合的な技術を習得する。
- (2) 実験実習を通して、管理能力や企画力やコミュニケーション能力と態度の育成を図る。
- (3) 野菜専攻生として1・2年次に学習した知識や技術を高め、新しい栽培方法や作業の効率化、時代のニーズにあった生産・施設管理・経営ができる人材を育てる。

## 2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4	1 果実を利用する野菜の栽培 【座学】 (1) ナス (2) カボチャ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で栽培している野菜について理解させる。</li> <li>①栽培上、経営上の特性</li> <li>②作型と品種の選び方</li> <li>③栽培管理</li> <li>④商品価値を高める技術</li> </ul>
	5	2 葉や茎を利用する野菜の栽培 【座学】 (1) ハクサイ	
	6	3 学校で栽培している野菜の管理 【実習】 各種野菜苗・トマト・ ピーマン・カボチャ・メロン・ 水耕サンチュ・水耕コマツナ・ 水耕ミズナ・ナスの栽培管理	
第2学期	9	4 果実を利用する野菜の栽培 【座学】 (1) イチゴ (2) キュウリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で栽培している野菜について理解させる。</li> <li>①栽培上、経営上の特性</li> <li>②作型と品種の選び方</li> <li>③栽培管理</li> <li>④商品価値を高める技術</li> </ul>
	10	5 葉や茎を利用する野菜の栽培 【座学】 (1) キャベツ	
	11	6 学校で栽培している野菜の管理 【実習】 ハクサイ・キャベツ・ ダイコン・ブロッコリー・ カリフラワー・トマト・ イチゴ・タマネギ・ 水耕サンチュ・水耕コマツナ・ 水耕ミズナの栽培管理	
12	7 島原市立第4小学校との 交流学习 (秋野菜の栽培)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜栽培の体験を通して、小学生に野菜作りの楽しさと命の大切さを教える。また、本校生徒がそれぞれの野菜の栽培を担当し、小学生に栽培指導を行うことで責任感を養う。</li> </ul>	
第3学期	1	8 果実を利用する野菜の栽培 【座学】 (1) トマト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で栽培している野菜や代表的な野菜を理解させる。</li> <li>①栽培上、経営上の特性 ②作型と品種の選び方</li> <li>③栽培管理 ④商品価値を高める技術</li> </ul>
	2	9 野菜の流通と経営改善	
	3	【座学】 (1) 流通と鮮度保持	
観点別 評価法	下記の内容について総合的に評価します。 <input type="checkbox"/> 授業に臨む服装 <input type="checkbox"/> 授業開始・終了の挨拶 <input type="checkbox"/> 授業の準備 (忘れ物等) ・授業態度 <input type="checkbox"/> 発問に対する答え <input type="checkbox"/> 板書内容のノート記入 <input type="checkbox"/> ノート・プリントの整理 <input type="checkbox"/> 予習・復習の状況 <input type="checkbox"/> 課題・ノート・実習手帳の内容と提出状況 <input type="checkbox"/> 小テスト・定期考査による理解度 (「学習のねらい」にそって、その内容の理解が深まったか。)		

## 3 担当者からのメッセージ

- 1 実際の栽培を通して、野菜の生理・生態について学びましょう。野菜全般に共通する性質と野菜ごとに異なる性質をしっかりと理解しましょう。
- 2 学校で栽培されている果菜類の栽培を中心に学習します。品質の良い果実の収穫を目指して栽培管理を行いましょう。
- 3 私たちが住む地域の実態やそれぞれの経営目標に応じて、野菜栽培の経営改善ができるような態度と能力を身に付けましょう。
- 4 専門用語や先端の技術について学びます。必ず予習・復習をしておきましょう。
- 5 黒板に書かれた内容は必ずノートに書いておきましょう。また、実習時に説明された内容も必要に応じてメモをとる習慣をつけましょう。

## 令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	農業	科目	専攻 果樹	単位数	5単位
学科	農業ビジネス科		学年	第 3 学年	
教科書	果樹 (実教)		副教材等	なし	

## 1 学習の目標

- (1) 農業の体験的な学習を通して、総合的な技術を習得する。
- (2) 実験実習を通して、管理能力、企画力、コミュニケーション能力、態度の育成を図る。
- (3) 果樹専攻生として、1・2年次に学習した知識や技術を高め、新しい栽培技術や作業の効率化、時代のニーズにあった生産・施設管理・経営ができる人材を育てる。

## 2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4	1 ナシ 【実習内容】 ・ハウスビワの収穫・出荷調整・礼肥 ・キンカンの収穫 ・マスカット整房・蔓取り・摘粒・袋掛け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培上の特性と現状を学ぶ。</li> <li>・種や品種とその特性と知り、栽培目的に合った選び方を学ぶ。</li> <li>・年間を通して生育の姿を理解し、適切な栽培管理の実施時期とその方法を学ぶ。</li> <li>・収穫や出荷の方法、加工利用と流通の現状を知る。</li> <li>・繁殖・植え付け方法や更新方法について学ぶ。</li> <li>・施設栽培の特徴と栽培管理の方法を学ぶ。</li> <li>・栽培管理と品質・収量の評価方法について学ぶ。</li> <li>・経営上の特性と経営計画の要点について理解する。</li> </ul>
	5	・露地ビワの摘果と袋掛け・収穫・出荷調整・礼肥	
	6	・モモ摘果・袋掛け・収穫・出荷調整 ・果樹園の除草作業 ・ウメの収穫・出荷調整	
	7	・ブルーベリーの収穫・出荷調整 ・イチジクの誘引 など 【実習内容】 ・管理作業の意味や内容を理解し、1人で作業ができる。	
第2学期	9	2 ブドウ 3 モモ 【実習内容】 ・ビワの剪定・追肥・中耕・わら敷き ・マスカットの収穫・出荷調整・給水作業・施肥・摘葉・わら敷き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培上の特性と現状を学ぶ。</li> <li>・種や品種とその特性と知り、栽培目的に合った選び方を学ぶ。</li> <li>・年間を通して生育の姿を理解し、適切な栽培管理の実施時期とその方法を学ぶ。</li> <li>・収穫や出荷の方法、加工利用と流通の現状を知る。</li> <li>・繁殖・植え付け方法や更新方法について学ぶ。</li> <li>・施設栽培の特徴と栽培管理の方法を学ぶ。</li> <li>・栽培管理と品質・収量の評価方法について学ぶ。</li> <li>・経営上の特性と経営の改善・経営計画の要点について理解する。</li> </ul>
	10	・カキの摘果・収穫・選果・調整	
	11	・クリの収穫・出荷調整 ・ブルーベリーの礼肥	
	12	・ウシュウカの収穫・選果・出荷調整 ・ヤイトルツの収穫・出荷調整・せん定 ・雑柑類の収穫・選果・出荷調整 ・ウメのせん定 ・果樹園の除草作業 など 【実習内容】 ・管理作業の意味や内容を理解し、1人で作業ができる。	
第3学期	1	4 カンキツ類 【実習内容】 ・雑柑類のせん定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培上の特性と現状を学ぶ。</li> <li>・種や品種とその特性と知り、栽培目的に合った選び方を学ぶ。</li> <li>・年間を通して生育の姿を理解し、適切な栽培管理の実施時期とその方法を学ぶ。</li> <li>・収穫や出荷の方法、加工利用と流通の現状を知る。</li> <li>・園地の整備・苗木育成・植え付けや更新方法について学ぶ。</li> <li>・施設栽培の特徴と栽培管理の方法を学ぶ。</li> <li>・栽培管理と品質・収量の評価方法について学ぶ。</li> <li>・経営上の特性と経営計画の要点について理解する。</li> </ul>
	2	・ハウスビワの摘果・袋掛け・色別検査	
	3	・ウメのせん定 など 【実習内容】 ・管理作業の意味や内容を理解し、1人で作業ができる。	
観点別評価法		<p>【知識・技能】 定期考査や小テストによって、授業に関する知識・理解を評価する</p> <p>【試行・判断・表現】 配布物・レポートの記入や提出状況、実技等で評価する</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 座学・実習時の態度等で評価する</p>	

## 3 担当者からのメッセージ

- 1 実際の栽培を通して、果樹の生理・生態について学びましょう。果樹全般に共通する性質と果樹ごとに異なる性質をしっかりと理解しましょう。
- 2 学校で栽培されている果樹を中心に学習します。品質の良い果実収穫を目指して栽培管理を行いましょう。
- 3 私たちが住む地域の実態やそれぞれの経営目標に応じて、野菜栽培の経営改善ができるような態度と能力を身に付けましょう。
- 4 専門用語や先端技術について学びます。必ず予習・復習をしておきましょう。
- 5 黒板に書かれた内容は必ずノートに書いておきましょう。また、実習時に説明された内容も必要に応じてメモをとる習慣をつけましょう。

## 令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教 科	農 業	科 目	専攻 畜産	単位数	5 単位
学 科	農業ビジネス科		学 年	第3 学年	
教 科 書	畜産(実教出版)		副教材等	プリント	

## 1 学習の目標

- (1) 動物に関する、専門性を深める。  
 (2) 「課題研究」の研究課題設定において連動させ常に関連付けをさせ幅広い知識・技術の習得を図らせる。

## 2 学習計画及び評価方法

学期	月	学 習 の 内 容 (項目)	学 習 の ね ら い
第1学期	4	<動物各論> 1. 社会動物各論 ・羊、ヤギについて ・イヌ、ウサギについて	・動物の体の仕組みに再度理解する。 ・各動物の機能や役割について理解する。
	5		・各動物の機能や役割について理解する。
	6	2. 産業動物各論 ・鶏・乳牛・和牛について	・家畜としての特性を理解し効率の良い生産物がどのようにして行われるか学習する。 ・採卵鶏における産卵生理及び飼養管理方法を学習する。 ・乳牛における飼養管理方法及び生理生態を学習する。
	7	<実習・管理作業・観察>	・実習等で観察を行いながら動物の繁殖の重要性を理解する。
第2学期	9	・乳牛について	・乳牛の泌乳生理及び繁殖生理のしくみを学習する。
	10	・肉牛について	・肉牛における肥育ステージの理解と血統・系統の重要性を学習する。 ※農業祭の準備
	11	3. 農業経営について ・ビジネスとは	・経営の基本となるデータ分析の重要性を理解する。
	12	<実習・管理作業・観察>	
第3学期	1	・農業ビジネスへの取り組み	・利益のでる経営とはなにかを学ぶ
	2	・ビジネスプランの策定	・自分が経営者の場合の計画プランを立て検証する。
	3	<実習・管理作業・観察>	
観点別評価法		・学期毎のテストを実施。 ・座学と実習を通して態度・技術などで評価する。	

## 3 担当者からのメッセージ

乳牛・和牛・羊、ヤギ・愛玩動物の専門性をさらに深めることを基本にしています。自分が専攻した分野については、その知識と技術を深め、3年次の課題研究と連動するためにも観察・研究を進めていくことになります。また、地域酪農家や関連産業との連携も様々な面で関係していくことから、自分の進路実現につながるように目標を設定していくことがこの講座のねらいです。

## 令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教 科	農 業	科 目	選 択 農 業 情 報 処 理	単 位 数	2 単 位
学 科	農 業 ビ ジ ネ ス 科		学 年	第 3 学 年	
教 科 書	農 業 情 報 処 理 (実 教 出 版)		副 教 材 等	な し	

## 1 学習の目標

- (1) 社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解する。
- (2) 情報処理に関する知識や技術を習得する。
- (3) 農業の各分野で情報及び情報手段を活用する能力と態度を育てる。

## 2 学習計画及び評価方法

学 期	月	学 習 の 内 容 (項 目)	学 習 の ね ら い
第 1 学 期	4	1 プレゼンテーションソフトの利用	○プレゼンテーションソフト「パワーポイント」を使って基本的な操作や特性を理解する。
	5	・基本操作	
	6	・ソフトの活用	
	7		
第 2 学 期	9	2 表計算ソフトの応用	○表計算ソフトを用いてグラフの作成・データベースについて理解する。
	10	・グラフ作成	
	11	・データベース	
第 3 学 期	11	3 データベースソフト	○データベースソフトの基本について理解する。
	12		
第 3 学 期	1	3 データベースソフト	○データベースソフトの基本について理解する。
	2		
	3		
観 点 別 評 価 法			○中間と期末の考査や実技テスト等によって主に情報処理についての知識・理解を評価します。 ○授業中に行う情報処理検定問題の演習結果を評価します。

## 3 担当者からのメッセージ

- 1 「農業情報処理」は、これからの情報化社会において必要不可欠な教科です。前向きな態度で臨み、積極的に課題に挑戦してください。
- 2 「農業情報処理」の評価や成果は皆さんの財産になります。課題への取り組みは常に積極的に行うこと、さらに自己評価を行いながら学習を進めていってください。
- 3 教科書の知識のみに偏らず、実技を通じて問題の発見や解決能力、情報活用能力を高め、実社会で役立つ実践力を身につけることが最も大切です。

## 令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	農業	科目	選択 植物バイオテクノロジー	単位数	2単位
学科	農業ビジネス科		学年	第3学年	
教科書	植物バイオテクノロジー(農文協)		副教材等	なし	

## 1 学習の目標

- (1) 植物バイオテクノロジーに関して、特にラン類の知識と技術を学びます。
- (2) 植物体(ラン類の)の特性とバイオテクノロジーの特質を学びます。
- (3) 農業の各分野への応用について学びます。

## 2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4	講義 1 地域の希少植物の増殖	・地域で絶滅が危惧される植物の増殖への植物バイオの活用を学ぶ。
	5	2 胚培養	・通常、交配で種子ができない種間雑種をつくる方法について学ぶ。
	6	3 やく培養	・やく培養の育種における役割を学ぶ。
	7	実験・実習 1 ファレノプシスの培養 (1)ファレノプシスの無菌播種 (2)継代培養、順化 (3)ラン温室管理・鉢替え等	・無菌播種し、発芽したものを新しい培地に植え替える。 ・ファレノプシスの人工交配をする。
第2学期	9	講義 4 遺伝子組み替え技術 5 いろいろな応用技術	・遺伝子組み替え技術など最新のバイオ技術と、作り出された培養植物の中から目的とする植物を選び出す方法について学ぶ。
	10	6 ウイルス検定 7 個体識別技術 8 バイオマスの利用	・メリクロン苗を用いた無菌的さし芽や順化について学ぶ。 ・バイオマスについて学ぶ。
	11	実験・実習 2 セントポーリアの培養	・セントポーリアの葉片培養を行う。 移植・発根培地への移植
	12	(1)組織培養 (2)無菌的挿し芽での増殖。 (3)順化 3 シンビジウムの大量増殖技術 4 ファレノプシスの無菌播種	・シンビジウムのPLB増殖を行う。 ・交配してできたファレノプシスの種子を無菌播種する。
第3学期	1	講義 9 植物バイオテクノロジーの展望	・今後の植物バイオテクノロジーの展望について学ぶ。
	2	(1)成果と動向 (2)植物バイオの今後の可能性	・植物バイオテクノロジーについて、全体像を見直す。
	3	10 まとめ	
観点別評価法	○定期考査5回で評価します。 ○授業や実験に取り組む態度、プリントの整理状況、実習報告書・観察レポートの内容で評価をします。 ○授業・実験等における服装・態度・技能によってバイオテクノロジーについての関心・意欲・態度・技術を評価します。		

## 3 担当者からのメッセージ

2年生時に学んだ「植物バイオテクノロジー」をもとにして、植物のバイオテクノロジーについて、より専門的に講義と実験をとおして学びます。実験の回数も多くなりますが、多くの実験では無菌操作が必要となりますので、集中して丁寧な操作を行うよう心がけましょう。また、実験の記録をきちんと取ることが大切です。



## 令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教 科	農 業	科 目	選 択	スマート農業	単位数	2単位
学 科	農業ビジネス科		学 年		第 3 学年	
教 科 書	図解でよくわかる スマート農業の基本		副教材等		なし	

1 学習の目標

- (1) スマート農業の基本とその内容について学ぶ
- (2) データの蓄積方法とその利用方法を学ぶ
- (3) 産業ロボットの種類や使用方法を学ぶ

2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい	備 考
第1学期	4	第1章 日本農業の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業における Society5.0～スマート農業 (内閣府 SIP の成果)</li> <li>・日本農業の課題と Society5.0</li> <li>・スマート農業の方法と期待される効果</li> </ul>	(中間考査)
	5			
	6			
	7			
第2学期	9	第2章 スマート農業研究と実用化の現状  第3章 農業データ連携基盤 (WAGRI)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビークルロボティクス (VeBots) 研究</li> <li>・衛星画像による広域診断情報生成と WebGIS 情報利用システム</li> <li>・UAV によるリモートセンシングシェアリング</li> <li>・農作業のロボット化</li> <li>・オートステアリング・システム</li> <li>・ロボット農機社会実装に向けたロードマップ</li> <li>・水田の水管理を自動化する給水・排水システムの開発とアプリの開発</li> <li>・スマート農機群による適性施肥技術</li> <li>・高精度化するための GNSS 補強信号</li> <li>・通信業者の低コスト・高精度測位サービス</li> <li>・求められる農業データ連携基盤</li> <li>・農業データ連携基盤 (WAGRI) の構造</li> <li>・農業データ連携基盤 (WAGRI) の3機能</li> <li>・データ連携機能・共有機能のサービス例</li> </ul>	中間考査
	10			
	11			
	12			
第3学期	1	第4章 スマート農業の実証  第5章 今後のスマート農業の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農林水産省スマート農業実証プロジェクト</li> <li>・スマート水田農業の全体像と経営評価</li> <li>・スマートアグリシティについて</li> <li>・スマートフードチェーンについて</li> <li>・小型スマートロボットと作業の拡大</li> </ul>	学年末考査
	2			
	3			
	3			
観点別評価法		【知識・技能】 定期考査や小テストによって、授業に関する知識・理解を評価する 【試行・判断・表現】 配布物・レポートの記入や提出状況、実技等で評価する 【主体的に学習に取り組む態度】 座学・実習時の態度等で評価する		

3 担当者からのメッセージ

これからの新しい時代を担う農業経営者は、従来とは違って経験と勘で栽培を行うのではなく、データに裏打ちされた根拠を元に行う必要があります。また、単に栽培するだけでなくどのように販売するかという点まで考える必要もあります。儲かる農業・環境に配慮した農業を展開していくためにもスマート農業は必要だと考えられるので、実際の栽培と関連づけさせながら学習してください。

## 令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	農業	科目	選択 有機農業	単位数	2単位
学科	農業ビジネス科		学年	第3学年	
教科書	有機農業 (島原農業高校編)		教材等	なし	

## 1 学習の目標

- (1) 有機農業全般に関する基礎的な知識・技術を身につけます。
- (2) 島原半島の土壌の性質を学び、それをもとにした持続的な農業生産につながる土壌改良技術を学びます。
- (3) 総合微生物防除 (IPM) を学び、環境負荷の少ない病害虫防除技術を身につけます。

## 2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4	第1章 有機農業の基礎 1 農業の歴史 2 有機農業の歴史 3 有機農業の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有機農業の歴史を踏まえて、その考え方を学習し、これからの環境と調和した農業のあり方を考える。加えて、化学肥料・農薬・雑草の有機農業におけるとらえ方を学ぶ。</li> <li>・野菜残さと廃オガから堆肥を作り、発酵温度経過や成分を調べることで品質管理についても学ぶ。太陽熱と微生物の働きによる土壌消毒技術を身につける。</li> <li>・有機農業における政策や情勢を学び、有機農産物の位置づけを理解する。</li> </ul>
	5	4 有機農業から見た化学肥料 ・農薬・雑草	
	6	実験実習 堆肥作りと堆肥の品質管理 土壌消毒 (太陽熱処理)	
	7	第2章 有機農業と農業政策 1 世界の有機農業の動き 2 わが国における 有機農業の動き 3 県の有機農産物に関する政策 4 有機農産物 Q&A	
第2学期	9	第3章 有機農業の土づくり 1 土づくりとは 2 土づくりの基本 3 土づくりの具体的方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有機肥料を用いた土作りを学び、実際に、有機栽培による秋野菜の栽培に挑戦する。</li> <li>・秋野菜の栽培過程で、病害虫対策について学ぶ。</li> <li>・収穫物の安全性・栄養価の評価を行い、慣行農産物との比較検討を行う。</li> </ul>
	10	4 半島の土壌に応じた土づくり 5 土づくりの実際 Q&A	
	11	実験・実習 土壌分析と施肥設計 秋野菜の生産 生産物の安全性・栄養評価 もみ殻くん炭作り (課外)	
	12	第4章 有機農業の病害虫防除 1 病害虫とは 2 病害虫防除の基本 3 病害虫防除の具体的方法 4 島原半島での取り組み	
	1	第5章 有機農業と環境 1 農業と環境 2 田園環境を守るために	
第3学期	2	実験実習 ぼかし肥づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業の多面的機能の観点から、有機農業を捉え直す。また、有機農産物を品質に見合う形で取引するための販路を学ぶ。</li> <li>・ぼかし肥の仕込みを行い、自家製有機肥料を作る技術を身につける。</li> </ul>
	3	第6章 有機農産物の販路 1 生産者から経営者へ 2 地産地消と産直	
観点別 評価法	○授業・実習態度、小テスト、定期考査の成績、課題提出状況、利用技術の習熟度によって評価する。		

## 3 担当者からのメッセージ

有機農業を通じて、これからの農業経営に必要な、知識・技術・考え方を総合的に学びます。一部の実習は課外で行い、宿題も出ますので、やる気をもって臨んでください。

## 令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	農業	科目	選択 アグリビジネス	単位数	2単位
学科	農業ビジネス科		学年	第 3 学年	
教科書	107条本 アグリビジネス (島原農業高校)		副教材等	なし	

## 1 学習の目標

- (1) これからの農業経営は、消費者が何を求めているのか知り、農業経営の可能性をさぐる。  
国際化に対応した我が国農業のあり方を学ぶ
- (2) 食の安全・安心・農畜産物の新しい販売方法や農業経営の新しい取り組みについて学ぶ。
- (3) スクールマーケットを実施し、農産物販売の仕組みや販売技術の取り組みについて学ぶ。

## 2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4	第1章 日本農業の現状とアグリビジネス	○農業政策、現状国際化を理解する。
	5	1 日本農業の変化 2 消費者の食に対する要請	○現代社会の安全ニーズ、現代人の食生活を理解する。
	6	3 地域農業の現状 4 アグリビジネスの可能性	○高齢化農業社会地域農業の取組みを理解する。
	7	第2章 新しい農畜産物の流通	○アグリビジネスのキーワードを探る。
		1 「有機農業」「環境保全型農業」 2 農産物の流通	○有機農産物と環境保全型農業とは ○有機農産物の消費食品のトレーサビリティ、野菜の市場流通
		※月一回のスクールマーケットの開催において 販売実習	○流通に及ぼす要因
		期末考査	
第2学期	9	第3章 マーケティングとは	○マーケティングの必要性、マーケティングの管理、製品差別化と戦略
	10	1 マーケティング 2 マーケティング戦略の方法	○市場調査の重要性
	11	第4章 新しい農業経営形態への取組み	○製品計画、価格の設定と流通、販売促進の目的
	12	1 農家の企業化 農業経営の法人化の意義、法人組織の種類 2 農業情報化 収集の方法、IT化の現状、トレーサビリティ	○農業情報の収集 ○農業分野におけるIT化
		※スクールマーケットでの販売実習 (1/2 班と接客班に分かれる) ※産業財産権 (特許・商標・意匠権などの知的財産権についても学習していく)	○消費者への安心情報の提示 ※知的財産を活用して、農業における技術・知識の活用・保護について学習し、新たな農業の在り方について学ぶ
	期末考査		
第3学期	1	アグリビジネスの実践について	○スクールマーケットにおける反省
	2	まとめ	
	3	学年末考査	○アグリビジネスとは
観点別 評価法	(1) 課題については、指示した教科書の予習 (2) ノート提出で回数・内容について評価します。 (3) 評価については期末考査における平常点に加点します。		

## 3 担当者からのメッセージ

アグリビジネスは本校の設定科目で、従来の農業経営だけの分野でなく、これからの農業をビジネスとして位置づけ消費者と生産者の視点をより明確にし、更にビジネスシーンをより具体的にイメージしてください。

## 令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	農業	科目	選択 生産管理	単位数	2単位
学科	農業ビジネス科		学年	第3学年	
教科書	GAPテキスト (山口TLO)		副教材等	なし	

## 1 学習の目標

- (1) 農業生産工程管理の内容や考え方について幅広く学習する。
- (2) 農業経営の改善・効率化、持続可能な農業を実施するための知識や技術について体験を通して学ぶ。
- (3) GAPに関する内容を中心とするため、農具や資材の整理整頓を意識し、具現化出来るようにする。

## 2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
1 学 期	4	第1 はじめに (1) GAPとは (2) GAPの認証とは (3) GAP学習で身につけたい力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GAPについて</li> <li>・GAP認証について (GAPの規格)</li> <li>・5S (整理・整頓・清掃・清潔・躰)、法令遵守</li> <li>・記録の習慣と文書化の習慣</li> <li>・PDCAサイクルを身につける、グローバルな社会に対応する力</li> </ul>
	5	(4) GAPで対象とする範囲 (5) 危害要因 (6) リスク評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マネジメント力とコミュニケーション力</li> <li>・農業生産工程、農場</li> <li>・危害要因について考える</li> </ul>
	6	第2 要点別に見るリスクとその対応 (1) 食品安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク評価の方法、重篤性の評価の方法、発生可能性の評価の方法</li> </ul>
	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物的危害要因</li> <li>・物理的危害要因</li> <li>・化学的危害要因</li> <li>・工程別にみる食品安全における危害要因</li> </ul>
	9	(2) 環境保全 (3) 労働安全 (4) 人権・福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物的要素、物理・化学的要素、省エネ・低酸素社会的要素、農業廃棄物的要素</li> <li>・労働安全と危害要因</li> <li>・経営における人権と福祉について</li> </ul>
	10	第3 農場ごとの目線でみる危害要因 (1) 圃場 (2) 農産物取扱施設・倉庫 (3) トイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(ワーク) 危害要因、リスク評価と対策</li> <li>・農場における危害要因 (自校の圃場について考える)</li> </ul>
	11	第4 適切な農場運営 (1) 文書化によるマネジメント (2) 記録の大切さ (3) その他のGAPの要点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営方針の明確化、経営資源の管理、農場のリスク管理</li> <li>・食品防御、供給者の管理</li> </ul>
2 学 期	12	第7 GAP実践校の事例に学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GAP実践校の事例を参考に、自校のGAPについて考える</li> </ul>
	1	第5 アニマルウェルフェアと畜産分野でのリスク対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・畜産分野でのリスク対策</li> </ul>
	2	第6 その他 (1) 知的財産の管理 GAPの基準書には入っていない大切なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的財産権について</li> <li>・差別化について</li> </ul>
3 学 期	3		
観点別 評価法			<p>【知識・技能】中間と期末の考査や小テスト等によって主にGAP認証についての知識・理解を評価します。</p> <p>【思考・判断・表現】実習を通して、思考・判断、技能・表現を評価します</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】教室授業・農場実習で取り組む姿勢・態度を評価します。</p>

## 3 担当者からのメッセージ

- 1 「生産工程管理」は、これからの農場経営において重要なGAPについて学ぶ科目です。前向きな態度で臨み、積極的に課題にも挑戦してください。
- 2 「生産工程管理」の評価や成果は皆さんの財産になります。課題への取り組みは常に積極的に行うこと、さらに自己評価を行いながら学習を進めていってください。
- 3 教科書の知識のみに偏らず、実技を通じて問題の発見や解決能力、農具等の整理整頓力を高め、実社会で役立つ実践力を身につけることが最も大切です。

## 令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教 科	農 業	科 目	選択 アニマルコミュニケーション	単位数	2 単位
学 科	農業ビジネス科		学 年	第 3 学 年	
教 科 書	アニマルコミュニケーション(島原農業)		副教材等	なし	

## 1 学習の目標

- (1) 愛玩動物の活用に必要な知識と技術を習得する。
- (2) 人と動物との関わりについて理解する。
- (3) 動物を理解しセラピーに活用する。

## 2 学習計画及び評価方法

学 期	月	学 習 の 内 容 (項目)	学 習 の ね ら い
第 1 学 期	4	1 章 動物とヒトとの関わり 1 狩猟とヒト・家畜化とペット 2 動物の癒しの効果	・動物の中でも、人間の生活に深く関わりがある家畜の基礎を理解する。
	5	第 2 章 伴侶動物の品種と特徴 1 イヌ ネコ ウサギ ハムスター品種と飼育	・伴侶動物は人と関わり合いのある動物で飼育管理を通して理解を深める。
	6	5 ウマの品種と飼育 第 3 章 動物の感覚	・動物を理解する上で生理生体を理解することが重要である。
	7	1 五感の発達と機能 2 聴覚・嗅覚・視覚・味覚・触覚 3 動物の表情 情報伝達	
第 2 学 期	9	第 4 章 アニマルセラピーの実際 1 アニマルセラピーの効果 2 子供・高齢者・障害者に対するアニマルアクティビティ	・現代では様々なセラピーが存在するが、他のセラピーと動物を活用したものとの違いを学習する。
	10	3 ペットロスの症状と対応	・動物を飼育する上で病気にさせない予防が大切となる。そのため知識を学ぶことが重要であることを学習する。
	11	第 6 章 動物の衛生管理 1 動物の健康管理・病気 2 精神管理・衛生管理 3 動物の福祉	
第 3 学 期	1	第 7 章 動物園の活用 1 動物園の歴史 2 動物園の機能と役割 3 子どもと動物園 4 動物の展示法	・展示動物としての動物園のなりたち意義を学習する。
	2	<実習・演習> 1 イヌのハンドリング 2 イヌのグルーミング 3 小動物の取扱	
	3		
観点別 評価法			<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業・実習等から関心・意欲・技能・態度を評価する。</li> <li>○ 季節ごとの管理の中から動物に対する優しさ・興味・関心を養う。</li> <li>○ 長期休業中の実習の中で動物の管理について学ぶ。</li> </ul>

## 3 担当者からのメッセージ

アニマルコミュニケーションは動物について広く学習し、動物(品種ごと)の生理・生態を理解し、うえで、を飼育するための方法について学習します。動物が苦手だという人も、動物を用いることによって「喜びを感じる人がいる」ということを頭に置いて、授業に取り組んでほしい。

## 令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	農業	科目	選択 園芸デザイン	単位数	2単位
学科	農業ビジネス科		学年	第 3 学年	
教科書	基本のセオリーがわかる花のデザイン (誠文堂新光社)		副教材等	なし	

## 1 学習の目標

- (1) 園芸デザインの視点から植物の植生や草姿を捉え、美しい環境を創造する感性を発見するとともに、造形に関する基礎的な知識を身につける。

## 2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4	1 色彩	<ul style="list-style-type: none"> <li>色の三要素</li> <li>配色</li> <li>色の感情効果</li> </ul>
	5	2 造形の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>形を成り立たせる要素</li> <li>構成美の要素</li> </ul>
	6 7	3 フラワーデザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>フラワーデザインの構成学</li> <li>フラワーデザインの構成原理</li> </ul>
第2学期	9	4 造形の要素と秩序	造形要素 <ul style="list-style-type: none"> <li>形体</li> <li>形態</li> <li>キャラクタ</li> <li>テクスチャ</li> <li>色彩</li> </ul> 造形の秩序 <ul style="list-style-type: none"> <li>ユニティ</li> <li>コンポジション</li> <li>レイアウト</li> <li>モーメント</li> <li>プロポーション</li> </ul>
	10 11	5 実習：フラワーアレンジメントの作成・展示	
	12		
第3学期	1	6 筆記試験演習問題	NFD3級筆記試験演習問題の解答・解説
	2		
	3		
観点別評価法	<p>【知識・技能】中間・期末考査、実習時の技能など、授業に関する知識・技能を評価します。</p> <p>【思考・判断・表現】実習での理解度、レポートやプリントの記入状況、発表などの授業態度を評価します。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】教科書や実習服等の忘れ、遅刻・欠課等で授業に取り組む意欲を評価します。</p>		

## 3 担当者からのメッセージ

- 1 草花の栽培を通して園芸デザインの意識を持ち、課題を見つけ積極的に取り組みましょう。
- 2 安全に実験・実習をするために、常に身のまわりの道具類の整理整頓を心がけましょう。
- 2 実習時の記録・レポートや課題はしっかり提出しましょう。

## 令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	芸術	科目	選択 保育音楽	単位数	2単位
学科	農業ビジネス科		学年	第3学年	
教科書	こどものうた200 (チャイルド本社)		副教材等	なし	

1 学習の目標  
保育課程進学に必要な技術および学典を修得する。

## 2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4	・基礎的な音楽理論	・基礎的な音楽理論の理解をする。
	5		
	6	・実技 ピアノ演奏	・ピアノ初級レベルの習得をする。
	7	・実技 歌唱	・正しい音程を習得する
第2学期	9	・基礎的な音楽理論	・音楽理論の理解をする。
	10		
	11	・実技 ピアノ演奏	・ピアノ中級レベルの習得する。
	12	・実技 弾き歌い	・弾き歌い初級レベルを習得する。
第3学期	1	・基礎的な音楽理論	・音楽理論のまとめ
	2	・実技 ピアノ演奏	・ピアノ上級レベルの習得をする。
	3	・実技 弾き歌い	・弾き歌い上級レベルを習得する。
観点別 評価法	<input type="checkbox"/> 楽譜を理解し、演奏できるか。 <input type="checkbox"/> 楽譜を理解し、表現できるか。 <input type="checkbox"/> 正しい指使いで演奏できるか。		<input type="checkbox"/> 正しい音程で音階を歌えるか。 <input type="checkbox"/> 正しいリズム、音程で曲を歌えるか。 <input type="checkbox"/> 課題の弾き歌いを演奏できるか。

## 3 担当者からのメッセージ

保育課程に必要な技術力および学典を習得できるように頑張りましょう。

## 令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	国語	科目	選択 国語研究	単位数	1単位
学科	農業ビジネス科		学年	第3学年	
教科書	最新国語便覧 (浜島書店)		副教材等	国語必携タブレット用完美演習 (尚文出版)	

## 1 学習の目標

- (1) 古典の和歌を中心に、同時代の他ジャンルの作品も含めて、日本文学史を体系的に学びます。
- (2) 言語感覚を磨き、歌の意味を深く理解します。また、技巧も学びます。
- (3) 古典に興味を持ち、親しむ態度を養います。

## 2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第1学期	4	1 『万葉集』 第一期	・和歌の音読に慣れる。
	5	第二期	・歌集の特色を理解する。
		第三期	・歌の意味を深く理解する。
		第四期	・的確な表現で和歌の鑑賞文を書く。
	6	東歌・防人歌	・歌人の人間像を調べ、発表する。
	7	2 上代(奈良時代)の文学	・上代の他ジャンル作品を知る。
	第2学期	9	3 『古今和歌集』 第一期
10		第二期	・歌集の特色を理解する。
		第三期	・歌の意味を深く理解する。
		4 『新古今和歌集』 西行	・的確な表現で和歌の鑑賞文を書く。
11		藤原定家 寂連	・歌人の人間像を調べ、発表する。
12	5 中古～中世(平安～鎌倉時代)の文学	・中古～中世の他ジャンルの作品を知る。	
第3学期	1	6 近代短歌	・伝統的和歌と、正岡子規以降の近代短歌を比較し、その違いを味わう。
	2	7 近世～現代(江戸～平成時代)の文学	・近世～現代の他ジャンルの作品を知る。
	3		
観点別 評価法			<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末や国語便覧を用いて、意欲的に指示された課題に取り組めるかを評価します。</li> <li>・主体的に学び、意欲的な態度で授業に臨み、活発な発表が出来るかを評価します。</li> <li>・上記の点を踏まえ、定期考査・提出物・授業態度・出席状況などから総合的に評価します。</li> </ul>

## 3 担当者からのメッセージ

- 1 授業には、必ず国語便覧を用意し、必要に応じてタブレット端末を準備してください。
- 2 声を出してすらすらと音読できるようにしてください。
- 3 分からない漢字や語句は、便覧・タブレットを用いて自分で調べる習慣をつけてください。
- 4 課題は、指示された方法で取り組み、期限を守って提出してください。
- 5 タブレット端末を利用して、言葉や社会的背景について調べ、学習効果を上げてください。



## 令和5年度 年間学習計画 (シラバス)

教科	数学	科目	選択 数学 I	単位数	1 単位
学科	農業ビジネス科		学年	第 3 学年	
教科書	最新 数学 I (数研出版) 最新 数学 A (数研出版)	副教材等	パラレルノート数学 I + A (数研出版) 教師作成プリント		

## 1 学習の目標

1. これまでに学習した数学の理解を深める。
2. 看護学校等の受験対策のために、過去問を学習する。

## 2 学習計画及び評価方法

学期	月	学習の内容 (項目)	学習のねらい
第 1 学期	4	数学 I ・ 2 次関数の復習 ・ 図形と計量の復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 次関数の最大値・最小値を復習する。</li> <li>・ 三角比の基本, 正弦定理, 余弦定理, 面積の公式などを復習する。</li> <li>・ 場合の数の基本, 樹形図, 順列, 組合せを復習する。</li> <li>・ 確率を復習する。</li> </ul>
	5		
	6	数学 A ・ 場合の数と確率	
	7		
第 2 学期	9	過去問演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 復習問題を演習する。</li> <li>・ 看護学校や医療系専門学校の過去問を演習する。</li> <li>・ 授業では扱っていない問題もあるので, その解き方を学ぶ。</li> </ul>
	10		
	11		
	12		
第 3 学期	1	復習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今まで学んだ数学の復習問題を演習する。</li> </ul>
観点別 評価法	A (十分満足できる)、B (おおむね満足できる)、C (努力を要する) の 3 段階で評価する。 1. 知識・技能 (40%) …… 定期考査の基本問題、小テストなどにより評価する。 2. 思考・判断・表現 (40%) …… 定期考査の標準・応用問題、発表などにより評価する。 3. 主体的に学習に取り組む態度 (20%) …… 授業態度・意欲・発言、ノートや課題の提出状況などにより評価する。		

## 3 成績の算出方法

1. 各学期の成績は、観点別学習状況の評価をもとに算出する。
2. 学年成績は、各学期の成績をもとに算出する。

## 4 担当者からのメッセージ

1. 授業には、必ず教科書・ノート・問題集を、必要に応じてタブレット端末を準備すること。
2. 授業中は、理解が深まるよう、集中して臨むこと。
3. 復習として、教科書の類題を自分で解いてみること。
4. ノート・問題集は、定期考査後に提出してもらうので、しっかり記入しておくこと。
5. 必要に応じて、タブレット端末を利用して、学習効果を上げる工夫をすること。